

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

【令和2年度作成】

施策名 (小項目)	地域に密着した医療サービスの提供	決算書 P120_106	(款)4 衛生費 (項)1 保健衛生費 (目)1 保健衛生総務費 (款)3 民生費 (項)1 老人福祉費 (目)1 老人福祉総務費
コード	04-06-24	作成者	病院総務事務長 濱山 一泰 (tel 72-1111)

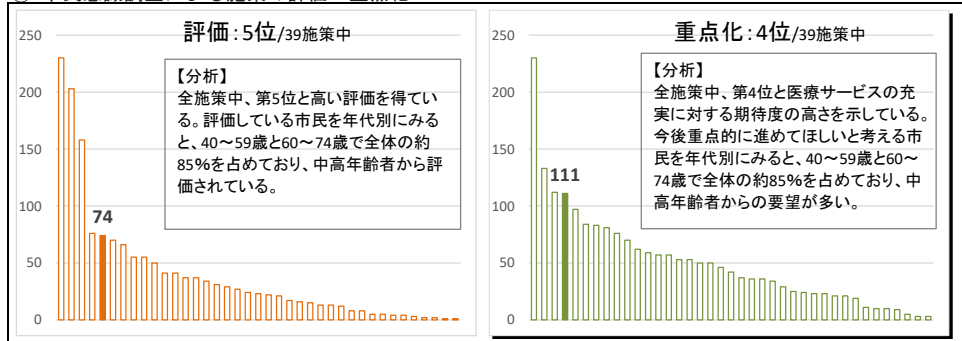
この施策の アピール ポイント	備前市病院事業は市立3病院及び老人保健施設の備前さつき苑で構成されています。地域に密着した質の高い医療・介護・健診等のサービスが提供できるよう連携を深めています。市民が安心して生活を送ることができるよう救急医療体制の充実、市内の開業医、診療所との連携を図っています。また、備前さつき苑は、自立した生活を目指した効果的で適切な介護サービス、リハビリテーションを提供しています。
-----------------------	---

この施策の 平成31年度の 施政方針	地域に密着した医療サービスの提供につきましては、さらなる高齢化が進展する中で住み慣れた地域で自分らしい日常生活が送れるよう医療と介護、福祉等が連携し、地域包括ケアシステムの構築に努めてまいります。 また、医療、介護サービスを将来にわたり安定して提供できるよう経営基盤の強化を図るとともに、地域の診療所等と一層の連携、協力により、地域医療の充実に取り組んでまいります。
--------------------------	--

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想 (大項目)	「安全・安心」
	基本計画 (中項目)	「誰もがいつまでも安心して暮らせるまち」
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	地域住民の方々へ安全で安心な医療を提供する。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の課題を抽出)	市立3病院の連携や機能分担を含め、より効率的な経営のあり方を検討し、持続可能で質の高い医療体制への転換が求められている。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 医療スタッフの充実・人材育成 救急医療体制の充実 地域医療連携の推進 安定した病院経営の推進 在宅復帰支援の充実 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単 位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値
		H29	H30	R1			
100床当たりの医師数	目標	人	12.0	12.0	12.0	・年度末医師数÷病床数×100	
	実績	人	10.3	10.5	10.6	・R1 備前9.3人、日生6.0人、吉永21.4人	R2 12.0
	達成率	%	85.8	87.5	88.3	・H30 備前9.2人、日生6.0人、吉永21.2人	R4 12.0
	ベンチマーク		7.9	8.0	7.7	前年度全国自治体病院(50床≤100床>)平均	—
参考指標 ① 経常収支比率 (100超が適)	目標	%	100.0	100.0	100.0	・経常収益÷経常費用×100	
	実績	%	100.4	100.2	100.5	・R1 備前96.1%、日生104.6%、吉永101.3%	R2 100.0
	達成率	%	100.4	100.2	100.5	・H30 備前97.5%、日生104.4%、吉永100.9%	R4 100.0
	ベンチマーク		98.1	98.0	97.1	前年度全国自治体病院(50床≤100床>)平均	—
参考指標 ② 病床利用率 (一般病床のみ)	目標	%	90.0	90.0	90.0	・年延入院患者数÷年延稼働病床数×100	
	実績	%	75.8	76.3	72.5	・R1 備前65.6%、日生59.2%、吉永89.5%	R2 90.0
	達成率	%	84.2	84.8	80.6	・H30 備前73.4%、日生62.8%、吉永89.8%	R4 90.0
	ベンチマーク		69.8	70.4	70.0	前年度全国自治体病院(50床≤100床>)平均	—
参考指標 ③ 救急搬送患者の受入割合 (東備消防組合管轄内 医療機関への救急搬送)	目標	%	70.0	70.0	70.0	・3病院受入数÷管轄内医療機関搬送数×100	
	実績	%	66.2	65.6	63.5	・R1 備前20.3%、日生17.2%、吉永25.9%	R2 67.0
	達成率	%	94.6	93.7	90.7	・H30 備前15.4%、日生18.7%、吉永31.5%	R4 70.0
	ベンチマーク		70.7	70.8	70.4	備前市/管轄内×100(各年10月1日の人口)	—

⑦ 目標達成に必要な新規事業 (施策構成事務事業以外の事業) 及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
和気医師会・保健課	在宅医療・介護連携推進事業	市・医師会・医療介護関係機関が連携することにより、適切に在宅医療や家族の希望に沿った最適なサービスが提供できる
地域福祉連携課・介護福祉課	在宅医療・介護連携推進事業	地域包括ケアシステムが構築され、自分らしい人生がおくれるよう地域の包括的な支援・サービスの提供体制が整う。

⑧ 施策の評価

項 目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判 断 理 由 (なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3	成果指標等については、全国自治体病院の医師数平均値を下回らないよう100床当たりの医師数を成果指標とし、参考指標には経営の健全化を示す指標として経常収支比率と一般病床の病床利用率と公立病院が果たすべき救急搬送患者の受入割合とした。いずれも自治体病院の使命と経営健全化を分析するうえで、重要な指標である。	
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3	事業構成については、手段についても貢献度においても効率性や採算性だけでなく、医療機能や住民の安心・安全にも考慮しており最適であると考えます。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	経常収支比率については、日生病院と吉永病院が良好なものの、備前病院は目標に達しておらず、一般病床のみの病床利用率については、吉永病院のみが全国平均を上回っている。今後も各病院間で診療科目等の違いを特徴として生かす連携を図り、各指標の達成度向上を実現させる。	
進行年度(R2年度)の取組内容 (課題解決状況)		昨年度発足した「病院事業あり方検討会」では問題点の整理、様々な提案が出ているが、結論には至っていない。引き続き、5年後、15年後の病院事業のあり方を検討する。また、3病院の連携強化については新しい進捗はみられていなかったが、今年度、人材の流動的な配置等による新陳代謝を検討しており、今後の人事異動に反映していく予定です。今後、高齢化、人口減が続く中、そして新たな感染症の発生も視野に入れ、将来にわたり安定した医療・介護サービスの提供ができるよう経営基盤の強化を図り、効率的な経営を維持するため、事務機構の適正化等、将来を見据えた3病院の連携強化を進める。	
翌年度(R3年度)の取組目標		市立3病院並びにさつき苑は常に連携を図り、病院事業内での人事交流等による人材の適正配置を推進することで、一層の経営の安定化を図る。また、地域の開業医、介護施設等及び市長部局とも連携しながら、地域に密着した医療、介護、予防サービスの充実を目指す。	
二次評価者コメント		市民意識調査による施策の評価も重点化も高い結果である。市民の期待に応えられる医療、介護サービスの提供に向け、医師を初め職員が一丸となり、市民から信頼され、必要とされる病院となるよう病院事業全体として取り組み、周辺の病院、医療、介護施設等との連携も深め、地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある。	基本施策への 貢献度 4 やや高い
役職	備前市病院事業管理者	氏名	荻野 健次